



[ 海の状況 (9/21~10/20) ]

神子表面水温……期間全体をとおして、平年並み(過去30年平均の±0.5℃程度)で推移し、期間の後期にはなはだ低め(過去30年平均より2.0℃程度低め)の日がみられた(図1)。

米ノ表面水温……期間の中旬まではやや低め(過去10年平均より0.5~1.0℃程度低め)で推移し、後半にはかなり低め(過去10年平均より1.0~1.5℃程度低め)からやや低め(過去10年平均より0.5~1.0℃程度低め)となる日が見られた(図2)。

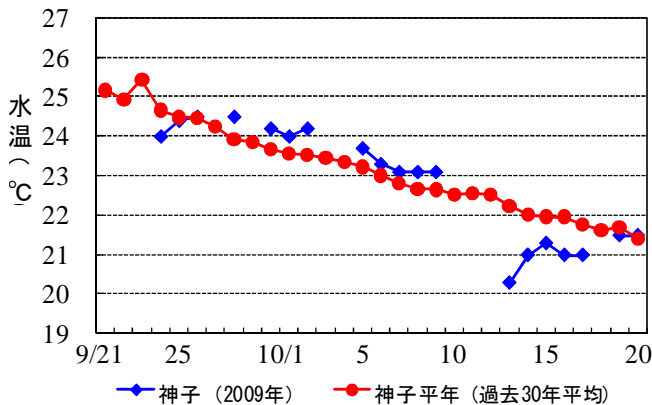


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移。

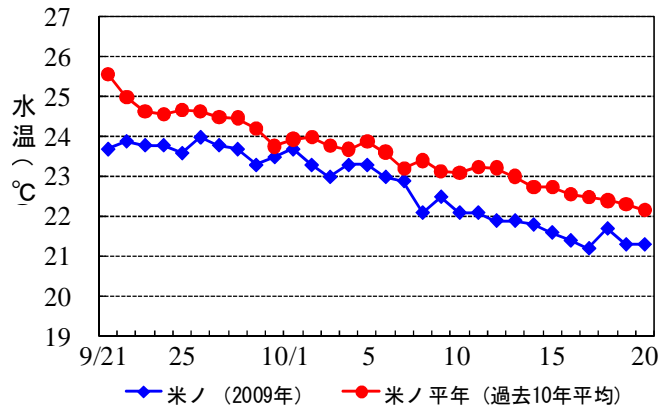


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移。

100m深水温……10月上旬の若狭湾は16~19℃台の水域が広がっていた(図3, 4)。

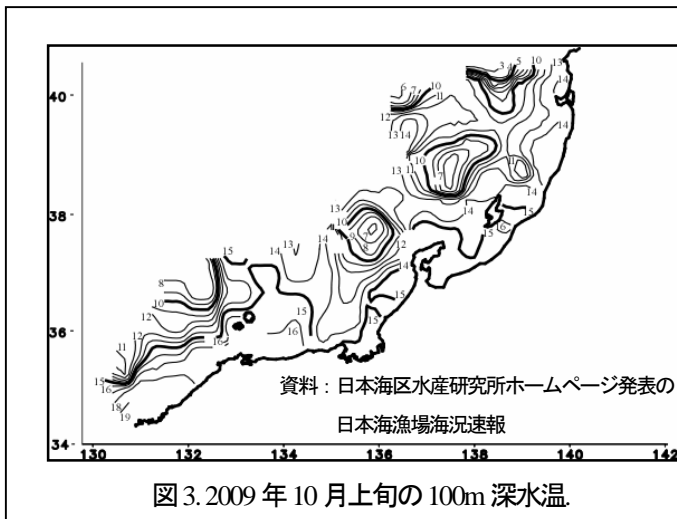


図 3. 2009 年 10 月上旬の 100m 深水温。

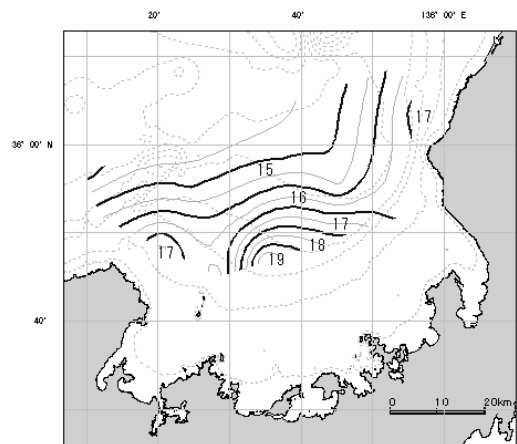


図 4. 2009 年 10 月 5~6 日若狭湾観測 100m 深水温。

平成 21 年度第 3 回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成21年10月~12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介し(本予報は、日本海区水産研究所のホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>)の最新情報の中に掲載されています。)

- 隠岐諸島北東の暖水域は、強い勢力を保ったまま、ほぼ停滞するでしょう。
- 山陰・若狭湾沖冷水域の張り出しは、平年並みで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部とも平年並み~やや低めで経過するでしょう。

〔漁の様相〕

2009年9月の県内の総水揚量は869tで、2008年同月を610t下回った。アジ類（2009年；73t、2008年；68t 以下同じ）等は上回ったものの、カジキ類（7t、23t）、ブリ類（93t、319t）、シイラ（17t、103t）、サワラ（264t、482t）カレイ類（135t、156t）、タコ類（8t、22t）、アカエビ（38t、68t）等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類（小アジ主体）等は上回ったが、カジキ類、ブリ類（ワラサ、ツバス銘柄主体）、サワラ類、シイラ等は下回り、全体で前年を560t下回った。

底びき網 ……アカガレイ、タコ類、アカエビ等が下回り、全体で前年を53t下回った。

釣り・他 ……ソデイカを主として漁獲し、前年並の漁獲量であった。

〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(単位：kg)

定置網			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
イワシ類	1,518	8,656	23,648
アジ類	71,288	66,233	65,796
サバ類	3,824	8,752	23,504
マグロ類	598	249	3,849
カジキ類	7,043	22,980	15,066
カツオ類	213	799	6,551
ブリ類	92,354	318,574	175,289
ヒラマサ(カンパチ)	2,135	10,496	10,386
シイラ	17,450	102,594	81,347
サワラ	264,181	481,945	208,946
マダイ	3,034	3,994	2,684
スズキ	2,961	1,379	1,027
カマス	7,994	8,916	21,521
フグ類	359	5,983	12,390
アオリイカ	3,936	8,888	7,916
ケンサキイカ	3,158	397	4,613
ソデイカ	1,744	656	3,209
その他	15,814	7,720	17,348
合計	499,603	1,059,210	685,090

底びき網のつづき			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
その他エビ	3,829	5,545	5,267
その他	79,037	51,450	65,896
合計	289,815	343,209	306,431

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
アジ類	743	496	952
サバ類	4	5	192
ブリ類	752	236	987
ヒラマサ	57	13	417
シイラ	0	81	111
サワラ	36	17	59
マダイ	2,251	4,242	4,398
キダイ	7,222	7,355	4,616
アマダイ	4,936	4,745	5,503
スズキ	321	168	353
ヒラメ	597	1,004	718
タチウオ	17	19	254
アナゴ	420	206	335
メバル類	3,751	2,628	3,085
キス類	150	111	439
スルメイカ	318	634	8,896
アオリイカ	1,321	2,141	3,140
ケンサキイカ	1,232	2,119	11,889
ソデイカ	14,095	11,336	27,919
タコ類	4,438	5,196	6,176
その他エビ	430	289	636
その他	36,339	33,244	31,856
合計	79,429	76,285	112,931

底びき網			
魚種	2009年	2008年	99-08平均
マダイ	2,024	2,506	2,458
キダイ	14,571	17,065	11,751
アマダイ	1,090	1,049	1,707
アカガレイ	100,361	121,874	72,152
その他カレイ	34,138	34,243	63,922
アナゴ	3,400	2,184	4,021
ハタハタ	991	10,048	2,758
ニギス	7,292	12,436	15,999
ケンサキイカ	1,262	541	964
タコ類	3,751	16,283	6,461
アカエビ	38,069	67,985	53,075

総計	2009年	2008年	99-08平均※
	868,847	1,478,705	1,127,792

※まき網による漁獲量を含む。

〔近府県の漁様相〕

(9月下旬から10月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

- 石川県…… 定置網 …… アジ174kg、フクラギ131kg、サワラ74kg、サバ22kg
- 京都府 …… 定置網 …… ブリ類(ツバス)2.7t、サワラ(やなぎ主体)6.4t、マアジ(ジツク主体)1.4t
- 兵庫県 …… 定置網 …… アジ268kg、ウルメイワシ210kg、ツバス56kg、サワラ26.8kg
- 鳥取県 …… まき網 …… マアジ25.7t、マサバ24t、マイワシ5t、ウルメイワシ4.1t

(池上 輝・粕谷 芳夫)

## 福井県におけるズワイガニ「越前がに」の資源状況について

ズワイガニ漁業が11月6日に解禁されますので、福井県におけるズワイガニの資源状況について報告します。

**漁獲動向：**福井県機船底曳網漁業協同組合の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は、増加傾向にあり、近年は500t前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニ資源管理の成果と考えています(図1)。

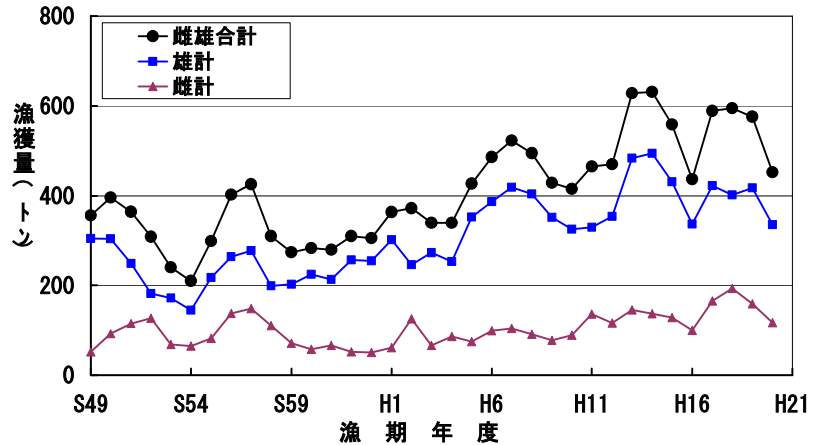


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

**卓越年級群（他の年に比べて加入量が特に多い年齢）：**福井丸のトロール網調査で卓越年級群が確認されています。H14年の調査で卓越年級群が確認され、この群が漁獲対象となったことがH17～19年に漁獲量が増加した要因のひとつになったと考えられました。また、H18年の調査でも別の卓越年級群が確認されています。この群が今漁期から漁獲対象となり今後の漁獲量・漁獲金額の安定のために重要であると考えられます(図2)。

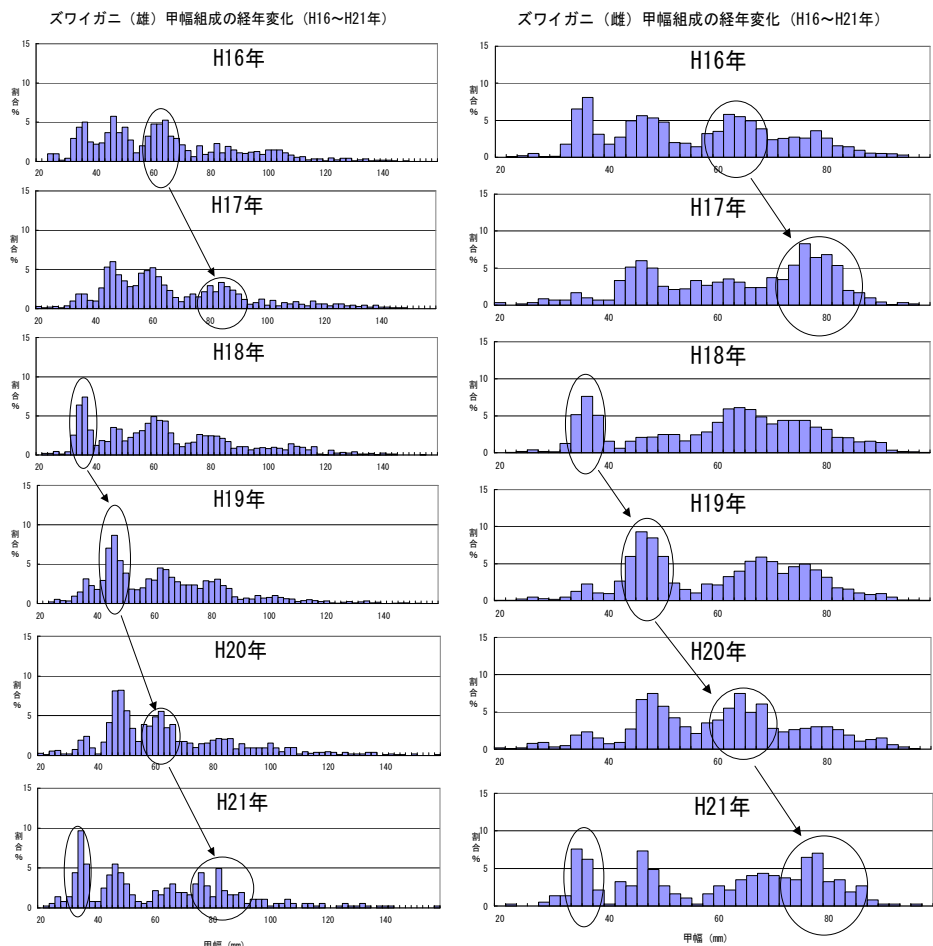


図2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成

**推定資源量：**福井丸のトロール網等調査結果を基に漁獲対象となるズワイガニの資源量を推定しました。推定資源量は、雄ガニで昨年(1,508ト)並みの1,484トと算出され、雌ガニで昨年(453ト)を上回る753トと算出されました。(前田英章)

## 稚ナマコの天然採苗について

浜へのたより第 221 号ではナマコの種苗生産の紹介をしました。発行時には種苗生産の途中でしたが、無事に生産することができ、22mm の種苗 3 万 8 千個余りを敦賀市手地区に放流しました。

今年の水産試験場では、ナマコの人工種苗生産だけでなく、天然に発生する稚ナマコを効率的に採集する方法も検討しています。海の中ではたくさんのナマコが生まれますが、育つのはごく一部です。そこで、天然の稚ナマコを効率的に採苗して育成すること（天然採苗）が可能かどうかを調べてみました。

方法は籠の中にカキ殻を入れ、海に吊るしてナマコの付着数を調べるというものです。そして、籠を吊るすのに適した時期の検討として、5 月 13 日から 6 月 3 日まで計 4 回、また適した水深を検査するため 0.5m, 1.0m, 1.5m, 2.0m の 4 水深で試験しました。

10 月 14 日から 21 日に、ナマコの付着数を調べてみました。写真 1 に示したように、籠にはムラサキイガイやホヤ等の付着物がたくさん着いていましたが、カキ殻の間に 5mm から 50mm の稚ナマコがたくさん付着していることを確認しました。付着していたのはアカナマコとアオナマコです。写真 2 では分かりませんが、アオナマコはアズキ色をしており、白色に赤の斑点があるのはアカナマコでした。アズキ色に見えるのがアオナマコというのはちょっと意外でした。

ナマコの付着数は 5 月 13 日から 27 日までが多く、6 月になると少なくなることが分かりました。水深については、ナマコの多い 5 月では全ての水深でたくさん付いていましたが、6 月では 0.5, 1.0m の籠に多く付着していました。

また、カキ殻の中に生きたカキを少し入れると付着数が約 6 倍にも増えることが新たに分かりました。（写真 3）

（畑中 宏之）

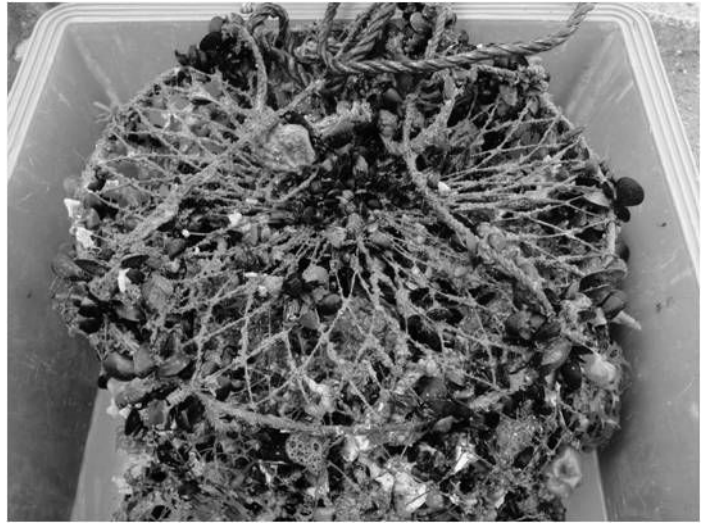


写真1 取り揚げた採苗籠

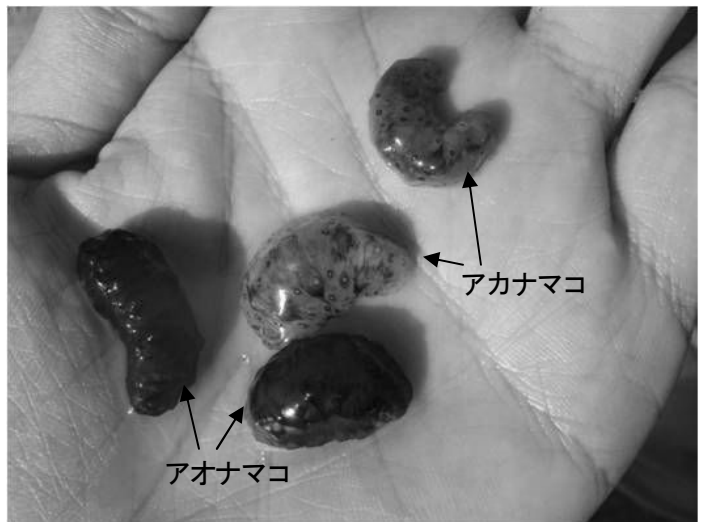


写真2 天然採苗したナマコ



写真3 1つの籠の中に入っていたナマコ